

「特別なニーズのある」子どもを対象とした SST プログラムに関する事例研究

- 援助者と被援助者の相互作用と将来への課題 -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
中村 明日香

本研究は、X年度にC大学心理・教育センターで実施された「特別なニーズのある」子どもを対象とした SST プログラムに参加した対象児 2 名に関し、ソーシャルスキルの指標を用いて行動観察を行い、同プログラムの現状と将来的課題を検討したものである。ソーシャルスキルの欠如や不足がみられる子どもたちのための SST プログラムは現在では広範囲に実施されているが、背景にある理論やその効果（測定）にも批判がみられている。このようなことを受け、本研究では SST プログラムが行動分析の手法を用いるものならば、同プログラム実施による利益は対象者になければならず、SST プログラムの効果測定も第 1 に対象児の視点にたったものでなければならぬという考えに立ち、行動を指標とした評価を行い、被援助者の側にたった SST プログラムを目標として新たな提案を行うことを目的とした。評価の結果、対象者のソーシャルスキルに顕著ではないが成果が表れていた他、SST プログラムの性格やプログラム中における援助者と被援助者の相互作用が十分に活かされていない可能性もみうけられた。そこで治療的関係におけるセラピストの行動に指示を与える数少ない体系的な心理療法として、機能分析心理療法の理論を用いて、将来的な SST プログラムに提案を試みた。同療法では、機能的行動分析とそれによる標的行動の設定など示唆に富む「ルール」を提唱する。そしてまた、治療の全てに貫かれる援助者自身のモニタリングによる被援助者への関わり方のガイドラインなどは大変参考にできるものである。